

日野まちづくりフォーラム 2006

公民館を活かした元気ある地域づくり

第1部 穂坂邦夫さんによる講演 「住民自治の原点と自立するまち」



NPO法人地方自立政策研究所
代表理事・前埼玉県志木市長

ほさか くに お
穂坂 邦夫さん

これからは、住民の自立(律)と地域の自立(律)、これが一番大切です。「自ら立つ、自らを律する」と言うのが難しく思えますが、「どうやって自分の地域を作っていくか」ということだけなのです。今まで行政は不沈艦と言われてきましたが、もう中央に頼れる時代ではありません。日野町も滋賀県も、京都も埼玉もみんな同じ条件です。「地方が自立する絶好のチャンスが来た」と考えなくてはならないと思います。行政は、「10年先に日

野町をこういう町にした、そのためには今、こういう改革が必要だ」という話をする必要があると思います。 どういうものをみんなで作っていくか、その主役は行政ではなく住民主導でないといけないと思います。行政はアドバイザー。お互いが住民の新しい参加方式を考えることが必要です。 今日、参加いただいた人を中心に「私たちがこのまちを創っていくんだ」という自覚を持っていただければと思います。

まちづくりを実践中!

「各団体の報告と意見交換」

子育て中の親子が ふれあえる場づくり

「パイン」を作ろうとしたきっかけは、親子プレイステーションやおもちゃ図書館に参加して、「子育て中の親子が楽しく過ごせる場所がほしい」と思ったこと



やしま たかお
矢島 孝男さん

上野田地区

「上野田地区防災地図」を作成

滋賀県にも琵琶湖西岸断層帯があり、大地震があれば、日野町でも5から6ぐらいの震度になるのではと言われています。「災害の被害を家族や地域が少しでも軽くすることが出来るのなら」という思いから取り組みを始めました。

自警団、福祉会役員による避難救助・連絡体制を整えました。消火器の場所・防火水槽の場所を地図に記し、地図を見て、「こんなところに防火水槽があるんやな」と気づいてもらえるようにしました。福祉会、福祉協力の協力で、いざというときにはひとり暮らしの高齢者等の安否確認がとれるようにしています。

5月28日(日)、日野公民館で「日野まちづくりフォーラム2006」公民館を活かした元気ある地域づくり」を開催。『地域活動の大切さと公民館を活かした地域づくり』をテーマに、第1部は、穂坂邦夫さんによる講演「住民自治の原点と自立するまち」、第2部は、滋賀大学助教授の只友景士さんをコーディネーターに迎え、3団体の代表者によるパネルディスカッションが行われました。終了後のアンケートには「このように自主的に活動をされていることに、たいへん驚きました」「補助金に頼っているだけのまちづくりから大きく変わっていかねばならないことを実感しました」などの声が寄せられました。





【コーディネーター】

滋賀大学経済学部助教授

ただとも けいし 只友 景士さん

3組の発表を聞いて、たいへん驚きました。滋賀県内で調査をする、自警団や水防団、まちづくり委員会や将来計画検討委員会など、たくさんの方々がいます。これは、自分たちの地域について考える機会がたくさんあるということ、とても大切です。

例えば、野球で内野を守るためには、内野陣が全員結束することが必要です。地域もそれと同じで、いろんな主体が連携できるかどうか、連携できた地域こそが力を発揮できるように思います。

今回のフォーラムでも確認されたように、町民の皆さんには町に対する誇りと愛着、そこから生まれる自治の気風があります。こうした町の特性を活かし、住民の皆さんへの情報の公開と共有により、顔の見える関係を大切にした「温かいまちづくり」を進めていきましょう。

私たちも自律の

第2部 パネルディスカッション

した。当初は、地域との連携がうまく取れませんでした。主任児童委員さんが、民生委員さんや地区社協の皆さんに働きかけてくださったことで、地域の中で徐々に認められるようになりました。現在では、約20組の親子が集まり、仲間づくりができています。これからは、サポートを受けるだけではなく、私たちも地域に返すものがなければ、地域全体の子育てにつながっていかないと考えます。公民館をもっとたくさんの方に親子がふれあえる場として、有効に利用していければと思います。

子どもの安全を守る活動



《必佐地区安全なまちづくり協議会・必守会》

むらしま しげお 村島 茂男さん

会を立ち上げるときに、苦労したことのひとつが、どのようにしてメンバーを確保するかということでした。消防団の分団長をやっていた関係で、当時の仲間を中心に消防団の現職・OBに声をかけ、個人的にお願いに回りました。皆さんに快く引き受けてもらい、「長いこと消防団をやってきて良かったな」と思いました。現在の活動状況としては、登下校時に小学校の前に立ったり、小学校4年生の授業に取り入れて

もらって、小学生と地域を点検し、マップづくりに取り組んだりしています。小学校には門や塀がありませんが、「われわれが目に見えない門や塀になろうやないか」と入り口には「特定巡回所」の表札を貼り、巡回をしています。これからは、次の世代を担う人材を育成することが課題だと思っています。若い人への声かけ、呼びかけ、PRを考えています。

《子育てサークル“パイン”》

すぎむらあきこ 杉村亜紀子さん(右)
やまくちみちこ 山口路子さん(左)

